

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370500492		
法人名	特定非営利活動法人エルダーサポート協会		
事業所名	グループホーム 愛の郷 笠岡		
所在地	笠岡市生江浜585-1		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/">http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台31-34		
訪問調査日	平成31年2月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

1. 入所者が住み慣れた場所で安心して暮らせるように、医師との連携を図り、尊厳を大切にしながら介護を提供しています。利用者様の体調の変化に早く気づき、受診の体制をとっています。2. グループホームの特徴を生かして、個別対応を行い、その日のその方の状態に合わせ、意欲を生かせるような対応を行っています。新聞折り、洗濯物量みなどの役割を担って頂く援助の外、法人主催の文化祭に向けた作品づくりの支援も行っています。3. 感染症予防対策に努め、毎日実践しています。4. 毎月、ボランティアの先生による生け花教室を開催しています。お花により、季節を感じていただいております。音楽会も毎月ボランティアの先生により開催され、歌ったり打楽器でリズムを取られたりして、馴染みの音楽を楽しんで頂いています。その他にも、季節行事に合わせた企画やメニューにて季節を感じて頂き楽しんで頂けるよう取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は静かな住宅街の中にあり、車の通行量も少ないので利用者の散歩に便利である。優れている点として、多くのボランティアが日常的に関わっていること、消防署とは事業からのボランティア活動を通じて、日常的に連携していること、運営推進会議に民生委員が毎回、3人参加するなど地域との連携が細やかなことがある。また、利用者全員が参加して実際に車に乗り込み、避難訓練を実施していることも挙げられる。工夫点としては、毎月さまざまな行事を実施し丁寧に記録に残していることや花見弁当・うな丼など季節感豊かな食事を提供していることなどがある。

aegsk

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と事業所の理念を各ユニットに掲示し、朝礼時にそれらと認知症介護の原則18か条を斉唱しています。理念・原則に沿ったケアの実践に努めています。	法人の理念と職員が考えた理念を各ユニットに掲示し、朝礼の時に斉唱している。ことばかけ等、気になる点があればミーティングで振り返り、共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、総会や清掃活動当に参加しています。	町内会の会議や清掃に管理者が参加している。生花やエレクtoon、ギター等のボランティアが定期的に訪問し、利用者と交流している。また、体験学習では中学生の発案で利用者たちと絵を作成したりもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や町内会等で施設見学や相談を受け付けている事をお伝えしています。金浦中学校の職場体験や笠岡市の夏ボランティアの受け入れをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小規模多機能ホームを合同で年6回開催されています。民生委員様、利用者家族様の出席があり、様々に情報・意見交換がされて、サービス向上に役立てられています。	包括支援センター、町内会長、民生委員、家族などが参加し2ヶ月に一度、開催している。出された意見は、災害時の避難方法などに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域福祉課や長寿支援課、包括支援センターと連絡を取っており、協力関係を築いています。	管理者が窓口となり、相談事など日常的に連携して関係を築いている。包括支援センターが実施する研修等には、内容によりケアマネと分担して参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関の施錠はしていません。委員会報告に基づく所内研修等にて、該当する具体的な行為について話し合い、認識を確かめています。	法人が実施する研修及び委員会が実施する所内研修で共有に努めている。とりわけ、ことばについては、法人理念のもと日常的に配慮し、拘束の防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会報告に基づく所内研修や、朝礼時認知症介護の原則18か条の斉唱を行い、虐待防止に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人からの資料等を通じて学ぶ機会があり、現在も笠岡市社会福祉協議会担当者様による成年後見人の支援が行われています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みや契約時等機会ある毎に説明し、理解を図っています。改定時には家族様宛に説明文の送付も行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人からの家族様へのアンケート調査の他、来訪時等、随時意見・要望を伺っており、運営に反映させています。	利用者は食後の寛げる時間などに、家族は法人のアンケートや面会時に意見を聞くようにしている。出された意見は、利用者の定期的な帰宅や受診の方法などに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフミーティング等にて職員の意見・提案が検討され、業務に反映されています。	毎月行っているミーティングやケアを通して意見を聞くようにしている。出された意見は、食品を購入する店の変更や利用者の栄養補給の強化などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与と年度末決算賞与、毎月処遇改善助成金交付、永年勤続者表彰があります。各自がやりがいを持って働けるよう、職場環境の整備・調整に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月所内研修を行う外、本社でのスキルアップ研修や外部研修も奨励されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社スキルアップ研修や、社会福祉協議会等外部での研修参加にて交流の機会があり、向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談時等から本人様の意向を汲み取ってサービス計画に反映させ、安心して頂き信頼関係を築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや入居前の面談等にて家族様等の要望等を受容の姿勢でお聞きしています。サービス計画に反映させてより良い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族様の要望に最適な支援を見極めた上、他のサービス利用のお勧めも含めて、適切にサービスを導入出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	新聞折りや洗濯物量み等、お一人づつに合った出来る事をして頂き、共に過ごし支え合う関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や毎月の手紙で健康状態・生活状況をお知らせしています。本人様からの面会や通話希望時、必要品ある時等家族様の協力を仰いでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様、友人・知人の方々の来訪時は、ゆったりと談話して頂けるよう居室への案内等おもてなしに努めています。通話支援も行っています。	家族や近所の知人等の面会時には湯茶を出し、寛いで話せるよう声をかけている。また、家族に年賀状を出したり電話をかける支援もしている。正月には馴染みの神社に初詣に行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を考慮した環境づくりをし、合同のレクリエーションや行事への参加を支援しています。時々トラブルもありますが、孤立せず支え合えるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先に情報提供し、電話や訪問の際、ご様子の確認をしています。情報提供は何時応じられる事等お伝えしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃本人様の話を傾聴し、思いや要望をプラン作成に活かせるようにしています。担当者を中心に連携し情報収集しています。担当者会議に出席して頂き、思いなど伺う機会を設けています。	利用者が寛げる食後などに話を聞くようにし、塗り絵や編み物などの手作業、移動図書館を利用することで読書習慣を継続することなどに活かしている。カンファレンスに参加している利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接でまず、本人様より情報を得ます。又、家族様、サービス関係者などから情報を得て馴染みの暮らし方等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を通して現状を把握するように努めています。毎日の申し送り等で、職員間の情報共有を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の利用者様の状況に応じて、職員間で問題を取り上げ、検討しています。又、ご家族、医師、看護師へも連絡、情報収集にあたりサービス計画を作成しています。	担当者が把握している課題等を職員間で話し合っ共有している。看護師との連携や、医師の往診時に意見を聞き、計画を作成している。モニタリングは3ヶ月、カンファレンスは6ヶ月としているが、状況に応じて柔軟に対応している	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状況を記録に記入しています。介護や治療変更などがあればノートに記入、出勤後すぐに確認するようにしています。又申し送りでも伝えて、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	水分補給・食事形態など、その方の状況に合わせ適切なケアを検討し、お一人ずつの能力に応じた自立支援を行えるよう、サービス提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会の誘いや選挙投票等、利用者様にお尋ねし対応しています。地域の祭事への参加も大切にしています。毎月の移動図書館は楽しみにされ毎回ご自分で選ばれる方もおられます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に提携病院を説明し、希望により病院を決めています。提携病院により毎月訪問診療があります。緊急時は、夜間・休日も相談援助が受けられるようにしています。歯科の訪問診療も行われています。	利用者・家族と話し合い、納得したかかりつけ医となっている。緊急時にもかかりつけ医と連携できる体制を整えている。歯科も毎週、往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師配置が来ています。出勤時には利用者様の状態を伝え、連携を図って支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院が有り、必要に応じて入院が出来ます。入院期間中は、相談員の方より連絡や報告があり、早期退院に向け、調整をしています。広報日等の訪問時にも状況を伺っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合、看取りに関する指針を説明しています。看取り介護には、身元引受人、主治医、施設立会人の同意書を交わし、看取りのプランを作成、それぞれと連携を図り支援を行います。	利用開始時に、事業所として出来ること・出来ないことを説明している。重度化した場合は、関係者が再度話し合いチームとして支援する体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故、急変のマニュアルにそって研修しています。消防所の来所により、救急救命の講習を受けておりますが、今年度は行っておりませんので来年度は計画したいと思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っています。地域推進会議では、金浦地区自主防災担当者様より災害種別に、立地条件に合ったより現実的な避難手順の提案を頂きました。	消防署の指導を受けて年に2回、避難訓練を実施している。昼間想定訓練には、利用者も全員参加している。また、地域の防災担当者とも避難方法についての連携もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレドアは閉めて介助、訪室時はノックをしています。見守りが必要な方には家族様に了解を得て、ドアを開けての見守りをさせて頂いています。朝礼時には、介護原則を斉唱し自尊心を傷つけない言葉かけの実践に努めております。	法人の理念を徹底し、入浴やトイレの介助時など、一人ひとりの利用者の尊厳を保てる言葉かけに配慮している。また、入室時のマナー等にも心を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけをして意向を確かめてから、行動に移すように心がけております。自己決定できるように、声かけしています。受容の姿勢で傾聴に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴などは時間帯が決まっていますが、体調や希望を考慮して援助しています。睡眠状態により昼寝を希望される方には、水分摂取など確認し支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は洗面、整髪等を本人様のADLに応じて支援しています。入浴後の着替えは、できる方には、自分で選んでいただくようにしています。その日の気温により、服の調節をしています。フェイスクリーム等の購入支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にはテーブルやお盆拭きコップ洗いをして頂いています。メニューには利用者様の好みや行事食を採り入れ、食事を楽しんで頂けるよう支援しています。	職員が交代で3食、手作りしている。可能な利用者はテーブル拭きなどに加わっている。敷地内の畑で採れた野菜を出したり、うな井など季節ごのメニューを提供し、利用者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日 食事、水分の摂取量はチェック記録しています。嚥下困難の方にはとろみ剤など使用。食事量の少ない方には、医師の指示により栄養補助飲料を提供しています。状態に応じた食事形態にて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアでは、声掛けや、仕上げ磨き介助、ハミングッドの使用等、本人様の力に応じた支援をしています。歯科受診希望者様には、往診で対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録チェック表を使用、排泄パターンの把握に努めています。失禁の少ない方には、布パンツ使用で普通の生活を心がけています。パット内のみ排泄の方には、トイレで排泄出来るように援助しています。	個別の体操、排泄チェックと細やかな声かけにより昼間はほとんどの利用者がトイレで排泄している。夜間は一人ひとりに応じた対応となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時には、牛乳を提供するようにしています。頓服使用する事もありますが、食事と水分の摂取量を適度に確保して頂けるよう努めています。又、体操も習慣的に行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望の時間での対応は難しいですが、その方の体調や希望に合わせて日にちや順番を柔軟に調整し、入浴していただいています。	週に2回、午後を基本として入浴している。嫌がる利用者には、言葉かけや曜日の変更等で対応し清潔を保つ工夫をしている。	給湯設備の関係で湯を張り終えるまでに時間がかかり、温度も上がらないようです。利用者が入浴を楽しめるよう、点検を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠時間により、その日の体調に合わせて休息していただいています。居室温度も随時調節しています。日中のリハビリ体操も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は介護記録に綴じ付け情報共有できるようにしています。薬変更等、ノートに記入し申し送り、間違いのないようにしています。変更後の状態等確認し往診時に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳む、新聞を折る等役割を持っていただいています。手芸や読書、歌謡のDVD鑑賞等お一人づつが楽しみを持てるように支援しています。また、文化祭への作品作りの支援も、利用者様の出来る事や好みを把握し行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった時は、電話連絡をされ、家族様の協力を得て外出をされています。お花見や、神社に初詣、ドライブも行い、天気の良い日には日光浴や散歩も支援しています。	一人ひとりの希望に添うことは難しい面もあるが、季節ごとに花見等に出かけている。また、天気の良い日には前庭でお茶を飲んだり、周りを散歩したりもしている。家族の協力で買い物や外食をしている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様よりお小遣いを預かっており、希望や必要に応じて購入の支援をしています。希望に応じてお金の所持を支援しています。敷地内の自動販売機や、外出時にご自身で使用される方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話していただいています。手紙での通信を望まれる方にははがき購入や、投函の支援も行っています。年賀状は、毎年利用者様から、ご家族様に出して頂くように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ボランティアの先生により毎月生花教室を開催しています。玄関に飾り、来訪者様や利用者様に楽しんで頂いています。笠岡消防署に飾らせて頂いており、利用者様の励みにもなっています。季節の行事や誕生日会等の写真もホール等に飾り楽しんで頂けるようにしています。	平屋建てで明るく、温度や音等が適切に管理されている。玄関の生花、居間には中学生と利用者が一緒に作成したちぎり絵、廊下には月ごとの行事のこやかな写真が飾られ生活感を出している。	大規模な地震の発生時には、居間と台所に置いてある荷物が落下する可能性があります。一部のトイレのドアが閉まりにくいようです。確認と補修が期待されます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを用意し、日光浴をしながら、ゆっくり過ごしていただけるようにしています。テーブル席は気の合う方と過ごせる様に配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時より、なじみの品の持参をお願いしています。ご家族の写真など持参されておられます。安心して過ごしていただける様に心がけています。	各室、木材をふんだんに使い、落ち着いた雰囲気を出している。カレンダーや時計、クリスマスプレゼントの小物入れ等を持ち込み、その人らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の区別がつかない方の為、自室前にはプレートを飾っています。トイレは分かり易い様に大きく表示しています。「使用中」の札も活用されています。廊下等に手すりが多く設置されています。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	45	片ユニットの大きい浴槽が給湯設備の不備等で十分に活用できていなく、入浴の楽しみは身体の冷え、安眠にも影響があるかもしれない	両ユニットで湯船での入浴を日常的に行う	給湯設備の点検・修理、湯船への手すり設置を本社に依頼する。浴槽用椅子の高さ調整、浴槽用マット等の必要品を整備し、湯船での入浴を再開する	1ヶ月
2	52	一部のトイレの引き戸の開閉が車いす自走の方には難しいのではないかと。応接室と台所の棚の上に物が置かれており、地震の際には落下する危険がある	トイレの引き戸を車いす自走の方にも開閉しやすい状態にする。棚の上に物がないように別の場所に収納するか、または落下防止策を施す	点検・修理する。必要なら本社への修理依頼をする。棚の上の物は撤去し、別の場所に収納する。棚自体の転倒防止策も施す	2週間
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

(別紙4(3))

## サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他( )
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他( )